



変えてはならないロータリーの基本理念 溢れている情報を整理して理解しましょう

理念研究委員会

委員長 松田 泰長 (成田RC)

理念研究委員会は研究・研修統括委員会のメンバーとして各分区で開会された情報研修会に参加をし、「ロータリアンとしての誇り」をテーマとした意見の交流をさせてもらいました。その中で感じたことは多くの方がロータリーの本質を語れないということです。ロータリーが他の団体とどこがどのように違っているのか、ロータリーはどのような集まりなのかが明確になっていないことです。なぜか？

原因は二つあると思います。

1. ロータリー暦が浅く単に情報不足である
2. 情報が多すぎて整理がつかない

①の情報不足・勉強不足については時間と研修委員会の努力で解決できると思います。

②の情報の整理ができない。これが今のロータリーが抱えている大きな問題です。特にこれからクラブの核となり運営に携わる方々がロータリーの勉強をした時にぶつかり悩んでいるところです。

ロータリーってなに？ と問われたとき皆さんはどのように答えますか？

- ・「職業人の親睦団体」と云う人
- ・「世界一の奉仕団体」と云う人
- ・「職業倫理団体」と云う人

など、これらはどれも正解でしょう、我々は状況とお話しする相手によって使い分けをしています。

国際ロータリー (RI) の公式文書に (Rotary is) で始まる文章が2つあります。

その1. (主としてロータリアン以外の外に向けた定義)

ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業および専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。

その2. (ロータリアンに向けた定義) 決議23-34の1

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原

則に基づくものである。

では「ロータリーの理念」はと問われたときは？

これが「解っているようで解っていない」ところです。

- ・「ロータリーの目的」(旧綱領) と云う人
- ・「四つのテスト」と云う人
- ・「決議23-34」と云う人
- ・「ロータリアンの行動規範」と云う人

などなど。2016年度手続要覧をご覧ください。

■ 基本理念 (GUIDING PRINCIPLES)

職業人が一体となり、スキルと情熱をもって地域社会に変化をもたらしてきたロータリーの100年以上の実績は、世界中のロータリアンの誇りを高めてきた。ロータリークラブと地区は、ロータリーの使命を遂行し、ロータリーが受け継いできた職業人精神と奉仕の歴史を理解するために、ロータリーのガバナンス(組織統治)に関する資料に加え、ロータリーの基本理念と価値声明に精通するべきである。

としてその冒頭に決議23-34を示し、「四つのテスト」、「ロータリーの目的」などが続きます。

よく、「変えてはならないもの」と「変えていかなければならないもの」が討議されますが、これが変えてはいけない「基本理念」と理解できると思います。

一方で変えてもよいものは、その時代と文化に合わせた運用方法の変更です。最近のロータリーは様変わりしてきました。例えば「一業種一名の原則が一業種数名へ」、「職業を持たない人でも入会可能へ」、さらには「例会日の減少」等々などです。さらに「会員特典ロータリー・グローバル・リワードの導入」・ロータリアンの行動規範の5「事業や職業における特典をほかのロータリアンに求めない」の撤廃、これは進化をしてきたロータリーが昔の互惠団体に戻ってしまった観さえあります。皆さんはどのように感じていますか？

この運用面の変更、緩和とも云われますがロータリーでの諸事を考えるときは常に「基本理念」を基に考えることが肝心です。緩和された先に立って考えると、緩和の枠は広がり続け、基本から外れてしまいます。

全てを「基本理念」に照らして考えれば正しい方向が見えてくるはずで

溢れている情報を整理して理解しましょう。